

# 清少納言「枕草子（春の空）」内容とポイント 解説（テスト対策）

## 清少納言の「枕草子」とは

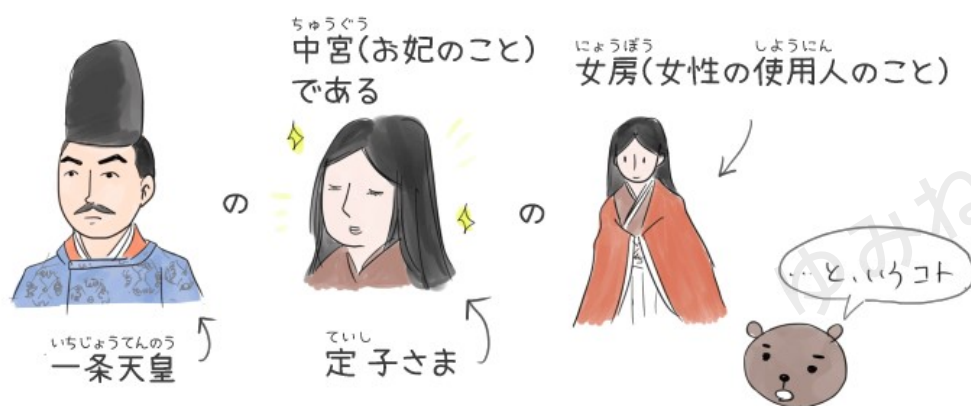
### 清少納言とは

清少納言（せいしょうなごん）は、平安時代に活躍（かつやく）した作家・歌人（かじん）だよ。

天皇のおきさきさまの女房（にようぼう：女性の使用人のこと）だったんだ。

清少納言は、一条天皇のおきさきさま（定子さま）の女房。

天皇のおきさきさまに仕えることができるということは、超エリートということだよ。



テストでは、清少納言について聞かれることもあるので、「平安時代」に活躍した「作家・歌人」ということをチェックしておこう！



## 枕草子とは

清少納言は、天皇のおきさきさまのもとで働いているときの宮中（きゅうちゅう：天皇が住んでいる宮殿のなかのこと）での生活のようすなどをテーマに、思ったことや聞いたことなどを書き記（しる）したんだ。

それが「枕草子（まくらのそうし）」なんだよ。

「草子（そうし）」とは「冊子（さっし）」という意味だよ。

「枕」は、宮中でどんなことがあったかを忘れないように、枕元に置いておくメモのイメージでつけられたのでは？という説もあるよ。

宮中でおこったことを、忘れないように書き記した冊子さっしだから「枕草子」というんだね。

## 「春の空」歴史的かなづかいについて

「春の空」に載（の）っているのは、枕草子の最初の書きだし部分だよ。

清少納言 枕草子

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

あれ？「やうやう」ってなに？

「山ぎは」もどういう意味だろう…？ってなるよね。

清少納言は平安時代の作家だよ。

だから、現代とは違う「かな・の使い方」をする部分があるんだ。



この「現代とは違うかなの使い方」のことを「歴史的（れきしてき）かなづかい」というよ。

歴史的かなづかいを現代のかなの使い方になおすときのルールがあるんだけど、今はまだ覚える必要がないので、現代ではどういう風になるのかだけチェックしよう。

枕草子の「歴史的かなづかい」と「現代かなづかい」

春はあけぼの。やうやう（ようよう）白くなりゆく山ぎは（わ）、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

現代だったら、「ようよう」と「山ぎわ」と書くんだね。

歴史的かなづかいが使われている部分を、現代のかなの使い方になおす問題も出ることがあるので、覚えておこう！

## 言葉の意味

枕草子は、平安時代に書かれた作品なので、今では使わない言葉や、ちがう意味として使われる言葉があるよ。

テストでは、それぞれの言葉の意味を聞かれることもあるので、それぞれチェックしよう！

あけぼの	明け方のこと。
ようよう やうやう	「だんだん」という意味。
白くなりゆく	「白くなっていく」という意味。
やま わ 山ぎは	空から見た、山とのさかい目のこと。
あかりて	「明るくなって」という意味。



紫だちたる	「紫がかった」という意味。
たなびきたる	「たなびいている」という意味。

## 枕草子「春はあけぼの」内容

今とちがう言葉が使われていたりするので、書かれている内容を理解するのは少しむずかしいよね。

テストでは、枕草子の内容についての問題も出るので、どんなことが書かれているのかよく確認しよう！

### 「春はあけぼの」とは？

言葉の意味がわかって、「春は明け方」って一体どういうこと？ってなるよね。

この言葉には、本当なら「春は明け方（がよい）」というように「…がよい」が続くんだ。

昔の文章には、このように言葉が省略されていることもよくあるよ。

つまり、清少納言は「春は明け方がいいわよね。」と伝えているんだね。

### 「やうやう白くなりゆく山ぎは」とは？

「やうやう」は「だんだん」だったね。

「白くなりゆく」は「白くなっていく」。

「山ぎは」は、空から見た、山とのさかい目だったね。



つまり、「空と山のさかい目のあたりが、だんだんと白くなっていく」、ということをお伝えているんだよ。

### 「雲のほそくたなびきたる」とは？

「たなびきたる」は「たなびいている」だったよね。

「雲の細くたなびいている」だと、やっぱりなんだかへんだよね。

「雲の」は、今の言葉の「雲が」と同じ意味で使われているんだ。

つまり、「雲が細くたなびいている」という意味になるんだね。

#### 枕草子 現代語訳

※現代語訳げんだいごやくとは、現代で通じる書き方に直した文章のことだよ。

春は明け方がよい。だんだんと白くなっていく山ぎわの空が、少し明るくなって、紫がかかった雲が細くたなびいているのがよい。

春といえば明け方よね。空の山とのさかい目が、だんだんと白くなって、少し明るくなって行って、紫がかかった雲が細くたなびいているのなんか素敵よね。

清少納言は、宮中での生活のようすを枕草子に書きとめていたんだよ。

宮中で暮らす清少納言が、春の明け方の空を眺ながめて、その美しさにうっとりしている様子が目に浮かぶよね。



## 春をテーマに使われる言葉

「春の空」では、枕草子のほかにも、春をテーマにした歌を学習するよ。

「春」をテーマに使われる言葉を確認しておこう！

はなび 花冷え	桜が咲く頃に、急にきびしい寒さが戻ってしまって冷えこむこと。
かん 寒のもどり	暖かくなってから、急に寒さが戻ってきてしまうこと。
春がすみ	春の季節にたつ、かすみのこと。冬から春になたときに、遠くの景色が見えにくくなること。
花ぐもり	桜の花が咲く時期の曇りのこと。
春風	春にふく風で、あたたかくてのどかな風のこと。
風光る	風がきらきらと光輝くように感じられること。 春が来てうれしいきもちや、希望を、ふく風にたくした言葉。
うららか	春に、空が晴れて日が明るく照っているようすを表す言葉。
のどか	春の、天気がよく穏やかなようすを表す言葉。

### 枕草子（春の空）まとめ

- ・ 清少納言は、平安時代の作家・歌人
- ・ 枕草子は、清少納言が宮中での生活のようすを書き記した作品。
- ・ 歴史的かなづかいで書かれている部分を確認しよう！
- ・ 言葉の意味を確認しよう！
- ・ 書かれている内容を理解しよう！
- ・ 春の言葉を確認しよう！

